

辰年

令和六年

謹んで新年の

は人口減少が進みます。それに伴って税収は減少していきますが、各施策のほか道路、上下水道及び福祉施設などのインフラの維持には財源が必要となります。大型風力発電の誘致は将来の町民の暮らしを守る財源につなげる手段となるのです。

檜山沖海域が昨年五月に洋上風力発電事業の有望区域に選定され、法定協議会が設置されました。発電事業が公募される促進区域の指定を目指して漁業者や地域関係者等と諸問題について話し合い、合意形成に向けて協議をしている段階にあります。先の陸上風力発電所の建設では、本町の建設会社が下請会社として参加し、ガソリンスタンドなども利用され、町内の旅館業者には多くの工事関係者が宿泊していたため、洋上風力発電の誘致においても同様の状況が見込まれ、町内経済に多大な効果をもたらすものと期待していることから、洋上風力発電事業の誘致を推進し、町税の増収や地元経済への効果をもたらすことを政策の柱として取り組んでいます。

これまでの施策展開は子育て

支援のほか、農業・漁業を重視した支援策を行って参りました。観光は投資のわりにリターンが少ないと思っていたところ、二十十六年に北海道新幹線が開通し、東京都と北海道が一本でつながりました。

北海道の玄関口となる隣町の木古内駅は、本町湯ノ岱地区から車で二十分に位置し、さらに二十二年には高規格幹線道路函館・江差自動車道の茂辺地木古内道路（北斗茂辺地IC（木古内IC））の開通により他地域からの交流人口が大きく増加することが見込まれ、観光などがさまざまな分野での経済効果が期待されることから、かねてより観光資源としてワイナリー構想を進める中、道外企業より会社へ出勤せずにパソコンと通信環境で勤務できる施設整備の提案がありました。新型コロナウイルスの影響により働き方も多様化となり、密集や密接を避けて地方や観光地などで一定期間宿泊しながら仕事をする方の需要も見込んで、宿泊施設とワイナリーとの併設を決断。二十二十一年に地方創生の一環として、閉校した湯ノ岱地区の小学校を総事業費四億五千万円かけて改修し、運営は民間事業

者が行っています。二十二十一年十月から北海道及び国内産のブドウを使用し醸造を開始、二十二十二年に第一弾となるスパークリングワインを発売しました。以降買いブドウでワインを仕込んでいますが、早ければ二十二十五年には町内で収穫したブドウによるワインの醸造を目標としています。

結びになります。私は常日頃から、まちづくりには何よりもまず、町民皆様が「自分たちが、自分たちの手で、自分たちの知恵でまちづくりをしている」という自負と責任を共有することが、何よりも肝要であると考えております。

「みんなで創る 誇れるふるさと上ノ国」実現のため、今後とも町政に対する一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたしますとともに、令和六年、この新しい年が明るい話題で満ちあふれ、皆様一人ひとりとって実りの多い素晴らしい年であることを心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

令和六年元旦